別記様式

議事録

会議の名称	令和6年度第4回岩倉市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年12月13日（金）午前10時00分から正午まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第1委員会室
出席者 （欠席委員・事務局）	出席者：渡邊眞依子会長、松本恵会長職務代理、佐藤振一郎委員、町田竜介委員、中島正資委員、五十嵐学委員、山田千佳委員、菅原由貴委員、的場美佳委員、市川玄人委員、和田岡真理子委員 欠席者：廣中大雄委員 事務局：こども家庭課長、こども家庭課児童館長、保育グループ長、子育て支援グループ統括主査保健師、保育グループ主査児童厚生員、保育グループ主任、一般社団法人地域問題研究所3名（コンサルタント）
会議の議題	1 岩倉市子ども未来応援計画の計画案（パブリックコメント実施用）について〔資料1～3〕 2 岩倉総合高等学校生徒による岩倉市児童館利活用ポスターについて〔資料4〕 3 その他
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の委員長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
会議に提出された資料の名称	資料1 岩倉市子ども未来応援計画（案） 資料2 主な変更点一覧 資料3 岩倉市子ども未来応援計画（案）のパブリックコメントを実施します 資料4 岩倉市児童館利活用ポスター 令和6年度第3回岩倉市子ども・子育て会議議事録
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
開会	
事務局	・令和6年度第4回岩倉市子ども・子育て会議を開催させていただきます。
1. あいさつ	
会長	・年末のお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。新しい計画の策定にあたり、これまで委員の皆さんから活発な意見をいただいたことで、計画名や基本理念を決めることができました。今回の会議では、パブリックコメント実施に向けて、計画案の最終確認に入ります。 ・子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援をどうするかというものです。子育て支援を考えるときには、どうしても、子どもの最善の利益より、大人の都合に目を向けることが多いです。しかし、岩倉市の今回の計画では、子ども行動計画の内容を含めるため、子どもの権利に軸足を置いた、非常に画期的な計画案になっていると思います。今日は、市民の皆さんに見ていただく前の最終段階ですが、最後まで納得のいく計画となるように、忌憚ないご意見をいただけたらと思います。
議題（1）について 事務局より、資料1～3に基づき、「岩倉市子ども未来応援計画の計画案（パブリックコメント実施用）」を説明	
会長	・前回の会議で決まった基本理念をもとに、P4の基本理念の文章を新たに作成しています。それ以外にも、資料2にあるように様々な修正をしているようです。皆さんのご意見をお願いします。
委員	・P48「計画の進行管理」について、「DO 施策の実施 教育・保育等の確」となっており、「確保」が途中で切れています。
事務局	・ありがとうございます。修正します。
委員	・P34「放課後子ども教室」について、今後はコンピュータ室の開放はなくなるようですが、その理由を教えてください。コンピュータ室に対する需要が低いのでしょうか。
事務局	・児童、生徒に一人一台タブレットが支給されているため、学校からコンピュータ室自体をなくしていると聞いています。
委員	・実績にある「教室数（回）」のカウントは、どういうカウント方法なのでしょうか。
事務局	・教室を開放していた数ではなく、子どもが実際に参加した教室数でカウントしています。令和元年度と令和4年度の数が比較的多いのは、令和元年度はコロナ前だからであり、令和4年度はコロナが落ち着いて事業を再開してきたからです。令和2年度と令和3年度は、コロナ禍のため教室数が少なくなっています。令和5年度の教室数が令和4年度より減っているのは、一部の学校でコン

	ピュータ室が廃止されたためです。
会長	・P4にある基本理念の文章内に「ひとりの存在」という言葉が使われています。言葉としてはすごくいいですし、前回の会議で基本理念を考えたときにもこの言葉はあったと思いますが、「存在」が何回も重なって出てくるのが気になります。たとえば「ひとりの人間」に置き換えることはできますか。
事務局	・岩倉市子ども条例において、「一人の人間」という表記がありましたので、基本理念も「一人の人間」に置き換えることは可能です。 ・原案の「「ひとりの存在」として、だれもが大切にされるべき存在です。」の部分で「存在」が重複しているので、「ひとりの存在」を「一人の人間」に修正します。また、他の「ひとりの存在」も、「一人の人間」に修正します。
委員	・P32、33「放課後児童健全育成事業」について、実績を見ると低学年の需要が増えていることが分かります。ただし、計画の確保方策では「ニーズ量に応じた職員配置を適宜行うことによって、ニーズ量に見合うサービスを確保」することとなっています。これだけ1・2年生が増えているのであれば、「低学年の割合に応じた職員配置を行う」とした方がいいのではないのでしょうか。全体の人数に応じて職員配置をした場合に、1・2年生に対する適切な運営ができるのか、少し気になります。 ・また、夏休みの利用については全体の人数が多くなるため、確保方策に「児童館や小学校内の図書室等を臨時的に活用する」と書かれています。しかし、実際に自分の子どもが利用している児童クラブでは、夏休み中は人が増えますが、児童館や図書室を利用しているところを見たことがありません。確保方策に書いてあることをしっかり実現してほしいです。また、そもそも実現できることを確保方策に書いてほしいと思います。
事務局	・委員のお子さんの利用している児童クラブでは、夏休み中でも利用者数が定員内に収まっているため図書館を利用していません。一方、岩倉南小学校や五条川小学校では定員以上の子どもたちの利用があるため、図書室などをお借りしています。岩倉南小学校では調べ学習室と文学の森を借りて、現在4部屋で運営しています。夏休み中は、さらに別の部屋も借りる予定です。五条川小学校でも、次年度から図書室をお借りする予定です。 ・確保方策の記載については、職員配置とともに、空間の確保といえますか、場所の確保を掲げることで、より具体的な方向性を示せるような形に修正します。 ・働くお母さんが増えて、低学年の利用が急速に増えています。低学年は動きが読めず、怪我をしてしまうこともあるので、安全・安心に過ごせるように、職員は低学年を中心に見るようにしています。また、夏休みは特に人が増えるので、夏休み限定の職員も配置して、安全安心な運営に取り組んでいます。
会長	・もともと低学年の利用が多い事業であり、これまでも対応はしてきていると思

	います。
委員	・P21にある人口推計の0歳児や1歳児の人口について、資料編にある令和4年の出生数から増えています。それまでは減少傾向にあるようなので、何か対策があるということなのでしょうか。
事務局	・あくまでも計算値であり、これまでの実績や適齢期の女性の人口などの比率で算出をしている数値です。若干違和感を覚えるところもあると思いますが、計算値として理解していただけたらと思います。
委員	・岩倉市子ども条例にある「つくっていく」という文言について、P6での引用文では「つくっていく」とありますが、P64には「つくつていく」とあります。「つ」について、大文字でしょうか、小文字でしょうか。
事務局	・小文字が正しいです。P64に掲載の条例文について、小文字となる箇所を修正します。
会長	・P7の施策の方向「(2)安心して子どもを生み、親として成長することへの支援」と事業方針の文言が、まったく同じになっています。詳しい内容が載っているP12をみると、「親として成長する」ことについて、事業方針には書かれています。現状と課題には書かれていません。なので、施策の方向は「安心して子どもを生み、育てることへの支援」としておいて、事業方針に「親として成長する」を加える形にしてはどうでしょうか。
事務局	・施策の方向について、「安心して子どもを生み、育てることへの支援」に修正します。
会長	・同じP12で、現状と課題では保護者の親のリフレッシュ的な支援について触れていますが、事業方針にはあまり反映されていないように感じます。
事務局	・現状と課題の3段落目「保護者の気持ちに寄り添いながら支援をしていく」に対する事業方針として、4つ目の養育支援が該当しますが、リフレッシュ保育などの制度についての記載があってもいいかもしれません。 ・ご意見いただいた通り、リフレッシュ保育を含める方向で検討します。
会長	・P31「ファミリー・サポート・センター事業」について、保護者の仕事と育児の両立のみが目的となる事業なのでしょうか。自治体によってはリフレッシュ目的でも利用できるようですが、岩倉市はどうでしょうか。
事務局	・本市でもリフレッシュ目的で利用できます。ただ、利用状況を見ると、仕事との兼ね合いで利用される方がメインとなっています。仕事で遅くなるので塾への送りや迎えをしてほしいとか、在宅勤務の間に子どもを見てほしいという利用もあります。
会長	・保護者の通院に際して利用することが可能だという自治体もあります。今の記載だと仕事を理由としてでしか利用できないのかと思い、確認しました。
事務局	・利用するための理由に特に要件は定めていないので、通院等を理由に利用する

	ことも可能です。あくまで、本市での現状としては、仕事を理由に利用される方が大半を占めているということです。
委員	・P13「(3) 経済的負担の軽減」について、小中学校の給食が無償となる自治体があります。岩倉市でも、給食費を無償化したら、子育て家庭の経済的負担の大きな軽減につながると思います。直ちに実施できるものではないと思いますが、給食費の無償化や一部補助について、何か計画に記載することは難しいでしょうか。せっかく「経済的負担の軽減」という項目があるのに、給食費のことについては触れないでいくのでしょうか。
事務局	・事業方針内で「幼児教育・保育の無償化等」と表記しており、「等」の部分に様々な事業を含めているということをご理解していただきたいです。 ・今後、国の方針で給食費が無償化になることもあるかもしれませんが、市独自の無償化となると、財政的な負担もありますので、この計画で明確に記載することは難しいところです。
会長	・保育の方は、無償化の際に給食費も無償化されていますか。
事務局	・幼児教育・保育の無償化は、年少さん以上は保育料が無償になるというのですが、給食に係る部分については、引き続き保護者負担となっています。 ・ただし、国の事業として、一定の所得以下の人や第3子以降の分の副食費が無料となっています。また、本市ではそれに加えて、副食費免除の世帯については主食費も免除しています。
会長	・小学校においても給食費の免除はあるのでしょうか。
事務局	・就学援助の一環で、一定の所得以下の人へは給食費や修学旅行の積立、学年費の補助をしています。
会長	・「幼児教育・保育の無償化等」の「等」の部分には、既に実施している一部の方への援助が含まれているということですが、他の自治体で実施している給食費の無償化については、岩倉市では、財政的な負担もあるので今の時点では計画に記載しないということです。 ・ちなみに、P13の経済的負担に関する事業は、すべての家庭が対象でしょうか。
事務局	・P13の経済的負担の軽減に記載しているものは、所得に関係なくすべての家庭を対象としているものになります。 ・所得の低い方への支援などについては、P16の「⑤子どもの貧困対策」に載せています。事業方針にも、「生活等の安定を図るため経済的な支援を行います」と記載しています。
委員	・P30「(4) 病児・病後児保育事業」について、ホームページに載っている内容と若干異なる部分があります。市内在住者で、市外の施設を利用する場合にも助成対象となると記憶しています。今の計画書の記載だと、市内の施設を利用した場合だけしか助成を受けられないように勘違いしてしまいそうです。もう

	少し詳しく記載した方が、誤解されないのではないのでしょうか。
事務局	・市外の病児・病後児の施設については、利用料に対して補助金を出す形で補助しており、市が市内の施設に委託して実施する病児・病後児保育とは、少し性質が異なります。 ・この計画では、病児・病後児保育として確保している量、具体的には、市内施設である「なかよしこどもクリニック」と「NPO 法人はんどいんはんど」の2施設が、それぞれ定員2名の枠を用意していますが、それを事業の確保量として記載しています。市外施設の利用の際の補助とは線を引いて考えてもらえたらと思います。
委員	・市外の施設を利用したらいくらかまで補助してもらえるのでしょうか。
事務局	・補助金の額は、利用料の2分の1の額で、上限は、1日当たり2,000円までとなります。
委員	・月に何回でも利用できる制度なのでしょうか。
事務局	・1回につき7日連続までを上限としています。
委員	・非常にいい制度なのに、計画書になぜ記載しないのか気になりました。
会長	・そうした市外施設利用の補助について、計画案にある「病児・病後児保育事業」に含まれている内容なのでしょうか。
事務局	・市の要綱上、病児・病後児保育事業と、市外施設利用の補助事業は別の事業になります。ただし、現行の第2期計画では、文章中に市外施設の利用の際の補助についての記載があります。実績には含めておらず、あくまで補足的な記載としています。 ・今回計画案を作っている中で、市外施設利用の補助についてはあくまでも病児・病後児保育事業とは別物であるため、計画書には記載しないこととする方向で考えていましたが、市外施設利用の補助についても記載してあった方が分かりやすいというご意見をいただきましたので、確保目標量に加えることはしませんが、説明の文章中に追記させていただくこととします。
委員	・共働き世帯が増えている中で、子どもが病気になるとどちらかが仕事を休まないといけません。たいてい奥さんの方が我慢をして、職場に頭を下げているんじゃないかと思います。看護はすごく疲れるので、そのような家庭には病児保育事業はすごく助かります。計画書には、利用できる制度がたくさん書いてあるといいなと思いました。
委員	・市内の施設を利用しても補助が出ないのに、市外の施設だと補助が出るのはなぜでしょうか。前に市内施設を利用したときに、2,100円ほど支払った記憶がありますが、これが市外施設だったら1,000円の補助が出ることになります。そうすると、市外施設を利用する方が安くなることもありそうな気がしますが、いかがでしょうか。

事務局	・病児・病後児保育事業を始めるときに、市外の施設の料金を調べましたが、かなり高かったと記憶しています。 ・市内施設での病児・病後児保育事業は、市が委託しているので、こちらで料金設定をすることができます。そのため、市外の施設よりも料金を抑えた金額となっています。 ・市外の施設利用に対しての補助金は、補助金を出すことで市内利用との差をなくし、できるだけ利用できる施設の範囲を広げる目的で、制度を始めました。 ・近隣の自治体の施設で病児・病後児保育を利用すると、その自治体に住んでいる人と市外の人では料金が異なっていることがあります。市外の人々の料金は高く設定されていることが多いので、その分を補助する、という趣旨になります。
委員	・安いという理由で、市外からの利用者が増えて定員が満員になることはないのでしょうか。そもそも、市外在住者も利用できますか。
事務局	・委託をしているなかよしこどもクリニックでは合計4名、NPO 法人はんどいはんどでは合計2名を受け入れられている体制をとっていて、それぞれ各2名を市内在住者が優先的に利用できるように、市から依頼をしています。
会長	・病児・病後児保育事業の利用ニーズが多い時期と少ない時期が読めない部分もあると思いますが、従来よりも共働き世帯が増えているので対応ができるとよいです。
事務局	・年間で見ると、空き室となる日も結構あります。しかし、いつ利用があるか分からないため、人員確保は必要です。一部の人からは、「これだけの利用しかないのにこんなに委託料を支払う必要があるのか」という声をいただくこともありますが、受け入れる側はいつでも受け入れられる体制をとっていないといけなないので、費用対効果が見えにくい事業ではあります。 ・先ほど、子どもが病気になると保護者が職場に頭を下げないといけないうお話がありましたが、本来目指すべき社会の在り方でいうと、自分の子どもが病気のときは自分が付き添いたいという保護者の気持ちもあるでしょうし、そういう時には当たり前仕事に休める社会であってほしいと思います。この事業があることで、子どもが病気のときでも子どもを預けて仕事に行ってしまう、そんなジレンマもありながら、事業を進めています。
委員	・子育てをしている保護者が職場に気遣いをしなければならないことについて、現実には子育てへの理解が低い企業が多いです。知り合いの中には、わざわざ三河地方の企業に勤めている人がいますが、なじみがあり、子育てにも理解があるため、岩倉に引っ越してきてからもそこに勤め続けていると聞いています。 ・P14の「(4) 仕事と子育ての両立支援」の主な取組の3つ目に、働き方改革の推進と記載があります。働き方改革の推進を図るのは他の部署だと思いますが、その部署の人は、この計画を見て、必要性を理解した上で働き方改革の推進に

	取り組んでいくという理解でよいのでしょうか。
事務局	・計画案の該当箇所について、それぞれ担当課にも確認をしてもらっています。働き方改革の推進は商工農政課になりますが、今の計画案の記載で問題ないことを確認しています。 ・ただ、働き方改革の推進自体は既にやっていますので、こども家庭課から商工農政課へ、子育ての視点も取り入れて働き方改革を進めてほしいという働きかけをしながら、連携できればと考えています。
委員	・資料3について、パブリックコメント案の閲覧場所について、閲覧場所が市役所と市ホームページになっていますが、場所を増やすことはできますか。例えば、自分は小さい子どもがいるので、子育て支援センターにあれば見る機会があるかなと思いました。閲覧場所が増えれば見てくれる人が増えてくれるのではないかと思います。
事務局	・すでに広報に掲載している内容です。12月23日からパブリックコメント開始のため、12月号の広報に載せなければなりませんでした。事前にご意見を伺えるとよかったですのですが、申し訳ございません。
委員	・パブリックコメントを実施している旨だけでも広く周知できないのでしょうか。たとえば、学童や図書館などへの掲示、すぐーるでの配信などです。
事務局	・チラシやい〜わキッズで周知を図っていきます。また、子どもが関係する施設にも周知の案内を送付いたします。
会長	・QRコードの載ったチラシとアプリでの周知をすれば、少しアクセス数は増えるのではないかと思います。
事務局	・関係する施設に対して、QRコードの載ったチラシを掲示してもらうこととします。
委員	・ホームページに掲載する際には、PDFにパスワードをかけて他者が改ざんできないようにするとよいと思います。
事務局	・ご意見ありがとうございます。
委員	・会議を重ねて委員の皆さんから出てきた意見を、事務局がよく取りまとめているなと思います。自分自身も、色々な事業があることを知らなかったと実感しました。学校もそうですが、すごくいい事業がたくさんあるのに、なかなか伝えきれていません。そこが課題だと思います。 ・話は戻りますが、会長が最初にご意見を言っていた、基本理念に「ひとりの存在」が何度も出てくるという点について、自分自身も、最初に読んだときに同じことを感じました。また、「尊重」という言葉も多く出てきている印象です。 ・基本理念の最後に「だれもが大切 輝く個性 子ども未来応援のまち いわくら」とあります。「輝く」「個性」「子ども」「未来」といった言葉が散りばめられていて、上手に文章を作ってくれたと思いますが、どういった理由で「輝く

	個性」や「子ども未来」という文章になったのかというところまで書いてあるといいなと思います。すぐに修正案を思いつかないですが、どんな考えがつながって、「だれもが大切」「輝く個性」「子ども未来応援のまち いわくら」という基本理念が作られたかのフローが分かるとよいです。
会長	・確かに、「だれもが大切」の部分についてはたくさん書かれています、「輝く個性」や「子ども未来」の部分については、少し弱いような印象を受けます。何か個性を輝かせることにつながるような文章になるといいかもしれません。 ・なかなかこの場で考えるのは難しいと思いますが、12月23日からパブリックコメントも控えています。他の委員の皆さんからも意見をいただいた部分がありますが、修正はどうでしょうか。
事務局	・パブリックコメントまでに会長とやり取りをした上で案を修正するので、本日いただいた意見については対応できますが、それ以降の意見への対応は難しいです。本日以降にご意見がある場合は、パブリックコメント後にいただければと思います。
会長	・それでは、本日いただいた意見については、できる限り計画案に反映させたいと思います。 ・また、その際の修正の内容については、会長に一任いただき、事務局と調整させていただくということで、ご承認いただけますでしょうか。
委員（全員）	・異議なし
議題（2）について	
事務局より、資料4に基づき、「岩倉総合高等学校生徒による岩倉市児童館利活用ポスター」を報告	
委員	・児童館は18時まで開いているけれど、中高生専用タイムを17時30分から設けるということは、小学生は17時30分までに帰ってください、ということではよかったでしょうか。
事務局	・そのとおりです。従来から、児童館では17時30分頃になったら「小学生は帰る時間だよ」と声掛けをしていました。ただ、17時30分だから絶対に帰りなさい、とまでは言っていません。 ・そのあとの30分だけですが、中学生の特別な居場所となるよう専用タイムを設けさせていただいています。
委員	・中高生は、9時30分から利用することももちろんできて、なおかつ、17時30分以降は専用で使えるということでもいいですか。
事務局	・その通りです。
その他	
事務局	・当初、2月4日（火）に予定していた次回第5回の会議日程を変更させていただきます。次回の会議は、2月20日（木）の午前10時から開催します。場所は後日ご連絡します。よろしく願いいたします。